

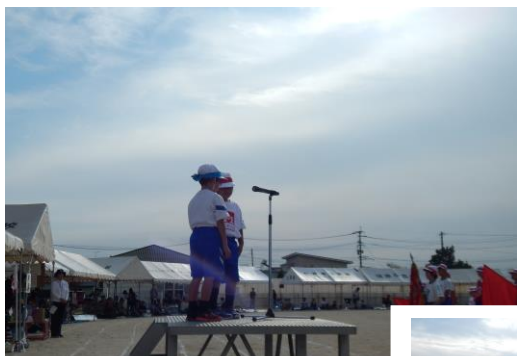
写真で綴る、感動の体育大会！



令和初の体育大会は、子供達の頑張り、互いを信じ合い励まし合う優しさの中で、成功裏に幕を閉じました。良い体育大会だったなあ、リーダーとして導いてくれた6年生、ありがとうという心地良い余韻に浸りながら筆を進めています。

本当のかっこよさは、「自分の精一杯を出そうとすること、失敗してもその精一杯を貫くこと」だということを、改めて子供達から教えて貰った1日となりました。

また、テント設営・撤去、杭打ち、駐車場係などあらゆる場面で率先して動いて頂いたPTA、保護者の皆様の協力に感謝すると共に、改めて、千代田西部地区の教育レベルの高さを感じさせて頂きました。本当にありがとうございました。



《全校朝会での話》 蜘蛛の糸

ある日のこと、仏様が住んでいる「極楽の蓮の池」の周りを散歩していたお釈迦様は、ふと池の中をご覧になった。地獄で苦しむ人は、みんな生きているとき、悪いことをしていました。その中にカンダツタという男がいた。生前は大泥棒として悪事の限りを尽くしたカンダツタも、たった一つだけ良いことをしたことを思いだされました。何とかこのカンダツタを救い出そうと、お釈迦様は蜘蛛の糸を蓮の池から下ろされました。（中略）

遥か上まで登り、カンダツタが一息をついてみると、地獄の亡者たちが次々と細い糸を上ってくるではありませんか。糸を振ってなんとか亡者を振り落とそうとしました。しかし、糸は切れません。揺らしても、揺らしても、なおも上ってくる罪人たちに、

「これは俺のものだ、登ってくるな、お前達は地獄に落ちろ～」

と叫んだそのとき、プツリと音を立てて糸は切れ、カンダツタはくるくると回りながら、真逆さまに下の血の池地獄に落ちていきました。（後略）

さあ、どうでしたか？自分だけ助かり、他の人はどうでもいい、なんて悲しい心が糸を切ったのかも知れませんね。実は、皆さんの肩には、二つのノートが乗っていて、一つは、あなたが良いことをしたときに「よしよし、とても良いことをしたな」とメモを書くノート。もう一つは、悪いことをしたときに「なんと、こんな悪いことを」とメモを書くノートが。さて、皆さんはどうでしょう？良いことか悪いことか判断する力を付け、良い行いができる人になっていきましょう！

これは、神崎市4か条の誓い「正しいことをやり抜く」ことや「人の痛みを感じる心」にも繋がります。「感性を育てる」本校の目標に向け更なる努力を重ねていきたいと思っています。

「三つ子の魂百までも」ではありませんが、この話が、子供達の心の片隅にでも残ればと願っています。



